

# お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

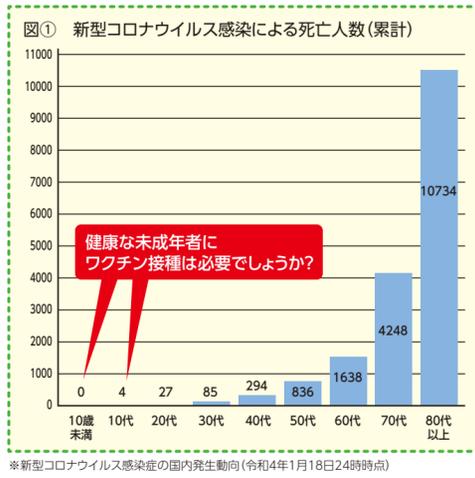
3月から12歳未満の子どもの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

# 厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

**未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人**

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいない。重症化もほとんどない。

これまでオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家や「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきただけで、実際は感染してもほとんどが軽症で済んでいく。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言えよう。



しかしその目的のために、子どもや若者連に同様の命や健康を賭かせるのはどうだろうか。大阪府泉大津市の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受けて当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

**ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない?**

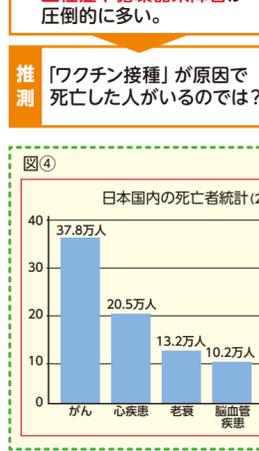
未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人（ファイザー製1377人・モデルナ製66人・アストラゼネカ製1人）に達している。しかしワクチン接種会場で突然死した場合は極めて少ない。厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「接種が原因で多くの方

が亡くなった」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。



POINT! 厚労省HPに掲載されているコロナワクチン3つの事実

- ① インフルエンザワクチンと比べて、接種後死亡が圧倒的に多い。
- ② 接種した翌日までに死亡した人が圧倒的に多い。
- ③ 接種後死亡者の死因は、血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。



もちろん個々の因果関係は分からないが、死亡者の死因も干渉別ではなく、血栓症（血の塊が血管を塞ぐ病気）や循環器系（心臓と、全身に血液を循環させる血管ネットワーク）障害が圧倒的に多い。この偏った分布と死因を見る限り、ワクチンにはまだ明らかになっていない何らかの有害性があり、それが原因でこれまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できない。

## ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所（NIH）が昨年9月から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉

経した生理が再開したという副反応まで報告されており、日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

この理由が、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも見えないことを意味する。

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡って何が起るか分からないまま接種を推進しているのが現状だ。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったり、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数ヶ月の間にいくつも起

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「治験が省略されることなく実施され、一時的な安全性については特段の不安があるという点はありません」と断言している。ところが事実は違っていて、厚労

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡って何が起るか分からないまま接種を推進しているのが現状だ。

最後に想像してほしい。もしあなたの子もや孫がワクチン接種後に突然亡くなったら、健康被害に遭った後遺症が残ったりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか。また「因果関係なし・不明」という発表に納得できるだろうか。そして子どもに接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか。そのように悲しんでやられない思いをしてほしい。親御さんが実際に何人もいるが、これは決して他人ごとではない。

ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。掲載できなかった、その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 97,555,702円(1月22日(土)19時時点)

右QRコードからもご支援いただけます。

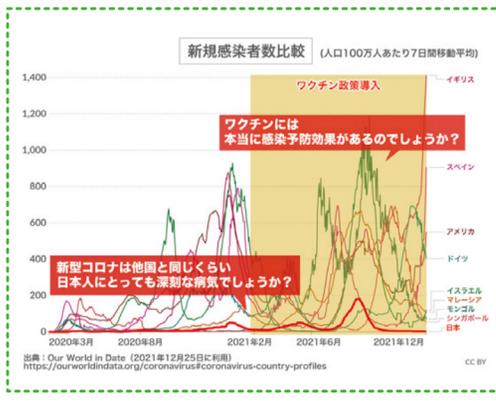
<https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見をお寄せください

ご意見・ご感想をお聞かせください。

メール [mail@dbank.jp](mailto:mail@dbank.jp)



「簡単!10分で分かる 新型コロナワクチンの危険性」

井上正康先生講演会動画

2021年最新動画

「新型コロナワクチンについて」

特別講座 井上正康先生

QRコード

おすすめ最新書籍(参考文献)

新型コロナ 騒動の正しい終わらせ方

「新型コロナ騒動の正しい終わらせ方」(方丈社) 著書:井上正康/松田学 (2021年12月1日)

新型コロナワクチンの全貌

「新型コロナワクチンの全貌」(小学館) 著書:小林よしのり/井上正康 (2021年9月30日)

まんがで分かりやすく解説! 「コマニズム宣言SPECIAL コロナ論4」

「コマニズム宣言SPECIAL コロナ論4」(扶桑社) 著書:小林よしのり (2021年11月18日)